

ペーチャの話

宮本百合子

青空文庫

ペーチャは十一だ。サヴェート同盟の百姓の息子だ。うちには牝牛が一匹、鶏が八羽、豚が四匹に、猫と犬がいる。

春から秋の末まで、おとっさんとおつかさんは一日、朝から晩まで畑で働いた。サヴェートでは日本でタンボをつくるように麦畑をつくる。馬鈴薯、玉ネギ、キャベツなどもつくる。

ペーチャの親たちは、自分の畑のほかに、村の金持の百姓レスコフの畑でも働いた、つまり小作をやっていたんだ。

ペーチャはピオニエールで、学校ではよく勉強したし、家の仕事もよく手伝った。牛をキャベツ畑から追っぱらった。草苳いもをした。ジャガ薯いも掘りなんかと来たら、うまいこと、大人にだってま

けやしない！

ところが、村にこういう噂がひろまって来た。サヴェート同盟じゃ、今度すっかり畑の作りかたを代えちまうんだそうだよ。一軒一軒がわけて作ってる畑をみんなまぜて、一つにしちまってみんなが共通で機械で耕したり、種を蒔いたり、蒔入れしたりするようにするんだそうだ。村の年よりどもはビックリして早速教会の坊さんのところへかけつけた。そして、きいた。

「ねえ坊さま。いってえ俺たちの村はどうなるだんべ。畑の区切りなくして、お前さまノペタラに麦なんどこせえたら、どっからどこまでが俺の分だか、ひとにとられたって分りもしねえ。そういう集団農場なんてのは、いやだナア」

坊主は、プロレタリアのサヴェエートがきらいだ。サヴェエートになつてから農民はドシドシ字がよめるようになって来た。道理がわかつて来て、この世にもしない神様を信じて、坊さんに財布ハタイて布施を出すことをだんだんなくなつて来た。だからいつだってサヴェエートの敵だ。村の年よりのグチをきいてこれ幸いと、

「そうとも！　そうとも！」
とおだてあげた。

「集団農場なんか下らん！　プロレタリア農民にいいことなんか
ないんだ。反対しなさい」

村に伝わった集団農場の噂でビツクリしたものがほかにもいる。

それは富農のレスコフだ。

太つて、デカイ腹に時計の鎖をたらしたレスコフは或る日パーチャの両親をテーブルの前へよびつけて云つた。

「ナア、お前たち、こんどはいよいよこの村も集団農場になりそうだが、賛成かネ？」

パーチャの父親はボンヤリ床を眺めて黙っていた。すると、レスコフが続けて云うには、

「集団農場になると、ワシの政府から借りてる地面も皆なの土地とつきまぜられ、従つて、お前たちに働いてもらつて、これまでみたいに野菜や麦や、町から貰つて来た布施をやることも出来ないようになる。お互に損だ。ナア、だから、村サヴェートで大会

があるときは手を上げなさんナヨ。反対するんだ！ よしか？」
そして、酒をのませ、ペーチャが学校からうちへかえって見たら、真昼間、酒くさいイビキをかいて、ペーチャのおやじは眠っている。

おっかさんが、手招きをしてそつとペーチャを裏の胡桃くるみの木の下へつれ出した。レスコフの云ったことを話し、

「だが、私はレスコフはだますと思うよ。考えて見るに、レスコフは、俺らを働かせ、くれる物より十層倍もの物を儲けておるんだ」

と溜息をついた。ペーチャはピオニエールだし、学校で、くわしく集団農場のことを聞いている。

「おつかさん、集団農場へ入る方がズツといいんだ。機械でウンと耕せば、ウンと麦がとれる。集団農場が儲ければ、平均に働いてる者にも分け前が来るし、托児所やクラブも出来るんだヨ！活動写真をタダで見れるようになるんだよ！」

大会のあつた後、ペーチャの家は大騒動がオツ始まつた。

「太い女郎め！亭主に反対して集団農場さへえる奴があるか！畜生！」

おやじは火の玉になってペーチャのおつかさんをなぐりつけようとした。おつかさんは泣きながら、

「だつてお前さん、お前さんの考えが間違つてるんだもの……レスコフにだまされるのはいやだよ、サヴェートはこれまでだつて

農民の暮しが楽になるようにと考えてくれたんだもの……」

ペーチャは、おつかさんを擲なぐろうとするおやじの手へぶら下つて叫んだ。

「とつちちゃん！ 考えれヨウ！ 集団農場の方がみんなの為にいいんだから、ヨウ！」

「小僧奴！ 出てうせろ！」

だが出てうせたのはペーチャではなかった。おやじだ。おやじはレスコフの家へ行つて、もう家へかえらなかった。

おつかさんとペーチャとは、仕方がないから二人ぎりです実に忙しく集団農場のために働いた。ペーチャは集団農場のピオニエール・クラブのために汗を流して壁新聞を書いたりした。

が、困ったことが出来て来た。おつかさんがだんだんシヨゲて来たことだ。おとつさんと別にいるのが辛くなつて来たらしい。

或る晩、おつかさんがペーチャの勉強しているわきで泣いていたと思ったら、次の朝ペーチャが目をさました時、家のどこにもおつかさんの姿が見えない。ペーチャはテーブルの上に、下手くそな字で書いてある置手紙を見つけた。

「可愛いペーチャ！　かんべんしてくれなさい。私はお父さんが恋しくてたまらないからレスコフのところへ行く。かんべんしてくれなさい！　

愚かな母より」

涙がペーチャのほつぺたを流れた。

それから、ペーチャは長いこと考えてたが、その手紙をもつて村の集団農場の議長のところへ行つた。

議長は、その手紙をひろげ、読んでから、

「ふーむ」

とうなつた。

「……ペーチャ、お前はさてどうするかね？」

ペーチャは、答えた。

「俺は、集団農場さ残る。……だって、集団農場はサヴェートの
もんで——俺おいらサヴェートの子なんだもん」

議長は、大きなつよい手で、しっかりペーチャの手を握って勇ましく振つた。

「同^{タワールンチ}志、ありがとう！ 一緒に働こう！」

それからペーチャは、集団農場のクラブで暮すようになった。

夏休みが来ると、毎朝早く、赤旗がヒラヒラ風にひるがえるトラクトル（耕作の機械）にのっかって畑に出て行くペーチャの姿を、村の人がみんな嬉しそうに見送った。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第四卷」新日本出版社

1979（昭和54）年9月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第5刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第四卷」河出書房

1951（昭和26）年12月発行

初出：「少年戦旗」戦旗社

1931（昭和6）年9・10月合併号

入力：柴田卓治

校正：松永正敏

2002年4月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ペーチャの話

宮本百合子

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>